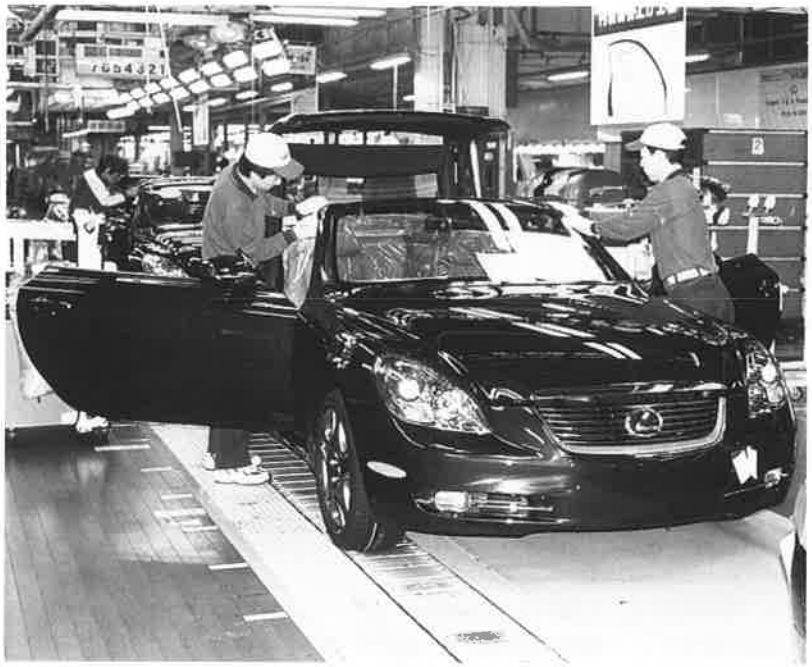
日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所　地方会ニュース編集事務局
〒　470－1192
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪１－98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生
電話（0562）93－2453
FAX　（0562）93－3079
発行責任者　井谷　徹

（題字　皿井　進筆）



完成車の製造ライン

工場本館と健康管理部門のスタッフ

まずは現場から・そしてチームワーク

野木　孝眞　（関東自動車工業東富士工場）

昭和61年トヨタグループの一員である関東自動車の産業医に、内科勤務医より転身し、早いもので平成18年には20年目をむかえます。最初は産業医といっても、安全衛生委員会に参加し、職場巡視する事以外は、一般診療が主で、はては胃内視鏡等も実施していました。（これはこれで従業員の方からは重宝されていましたが。）徐々に手指の障害・腰痛・難聴・熱中症・皮膚疾患及び有害光線や有機溶剤による障害等の業務起因性疾患に係わるケースが増えてきて、産業医らしくなってきましたが、産業医として充分に行動する為には、まず現場を知ることが大切だと感じ、ことあるごとに現場に行き観察したり、実際に体験したりして、自分の知見を広めていき、また、様々な他の業種の現場も訪問させてもらい現場経験を深めました。臨床医にとっては患者さんが大切な教師役となるのと同じく、我々にとっては現場が重要な教育の場となります。「現場100回」という言葉がありますが、産業医たる者は、現場を熟知することが基本の一つだと思います。

昨今は所謂、職業病に加え、様々な労働形態による問題・過労死・過重労働・メンタル不全・生活習慣病・メタボリックシンドローム・安全配慮義務等々、対処すべき問題が山積しつつあり、産業医としてやるべき事及び範囲が、臨床医の時より、ずっと多くて広範囲になっています。「産業医というのは大変だ！」といまさらながら感じるのと同時に、自分自身の少ない能力を、もっと向上させる為に、各種学会や研修会に参加したり、社会性を広めるよう多分野の業種の方に勉強させてもらっています。

しかし、人間一人に、出来る事には限りがあります。私の趣味の一つに自転車ロードレースがありますが、プロのロードレースではチーム単位で出場し、チーム員が一丸となってエースを勝利させるために働きます。チームの総合力が高くないと、どんなにエース一人が強くてもツール・ド・フランスの様な大きなレースでは良い結果がでません。同じように、産業医一人がどんなに頑張っても成果は知れています。看護師、健康管理スタッフ、衛生管理者、作業環境測定士、保健師等が協力し、お互いの能力を上げながらマネジメントシステムのP-D-C-Aサイクルを回し、チーム一体で行動するのが理想だと考えています。

最後に今後は、今まで培った経験を少しでも多く後輩に伝えていきたいと思っています。

平成17年度　東海地方会学会を担当して

小林　章雄（愛知医大）

平成17年度の東海地方会を11月26日（土）に無事終了することができました。何かと不行き届きもあったかと存じますが、皆さまのご協力に厚くお礼申し上げます。学会は、愛知医科大学本館を会場として開催いたしました。名古屋市内からやや奥まったところに位置しており，ご不便をおかけしたかと思いますが、多数の方にご参加いただきましたことを、大変ありがたく思っております。午前中の一般演題は、医学部の講義室で、また特別講演と教育講演は、たちばなホールでそれぞれ進行させていただきました。地方会学会における一般口演は、産業衛生に関する日頃の研究や実践活動をまとめ、発表し、討論する場として得がたい機会であると思っております。今回は２つの会場で16題が口演され、どちらの会場でも非常に熱心な質疑応答が交わされていたと思います。ただ、私が８年前の平成９年に担当させていただいた当時、あるいはそれ以前のことを思い起こしますと、一般演題の数が、かなり少なくなっているのではないかとの印象をもちました。全国学会や学会内の種々の研究会、関連する諸学会がたくさんある中で、地方会学会での発表の意義が次第に薄れつつあるのでしょうか？ひょっとしたら、このような、はっきりとした演題数の減少傾向は、東海地方会のみで起こっているのではないか？と危惧いたします。もしそうならば、今後、何らかの工夫が必要になるのかも知れません。午後は、特別講演として関西福祉科学大学の倉恒弘彦先生に「慢性疲労研究の成果と展望」と題してご講演いただきました。過重労働やメンタルヘルス対策が重要性を増す中、これらの基盤となる学術の進展が一層加速されねばなりません。近年めざましい進展を見つつある慢性疲労症候群を中心とした研究の成果と展望をお聞きし、広範囲にわたる先生のエネルギッシュな研究活動に感銘を受け、励まされた方も多かったのではないかと思います。先生は「あと30分話したかったなぁ」といわれながら、会場をあとにされました。つづいて教育講演として、犬塚君雄先生に「職場における結核対策」、中川隆先生に「職場におけるＡＥＤの導入・展開」、市川佳居先生「職場における危機介入」をご講演いただき、短いご講演時間の中でわかりやすくまとめていただきました。いずれも実践的なテーマで、職場の保健医療スタッフ、衛生担当者、また事業者にとっても、貴重な情報を得ることができたのではないかと思います。閉会時刻がやや遅くなりましたが、最後まで熱心にご参加いただきました。できれば、そのあと、懇親会などを当初は目論んでおりましたが、予算の制限等もあり、かないませんでした。なお、本会は愛知県医師会の共催および日本医師会認定産業医研修会と日本産業衛生学会産業看護職継続教育システム実力アップコースとしてのご承認をいただきました。関係各位に感謝申し上げます。

一般演題発表

一般演題発表

倉恒　弘彦先生

学会プログラム

日　時：　平成17年11月26日（土）　10：00～16：30
会　場：　愛知医科大学本館
午前の部（３階講義室）
◆一般演題10：00～12：00
午後の部（たちばなホール）
◆地方会長挨拶13：00～13：05
　日本産業衛生学会東海地方会長　井谷　　徹
　（名古屋市立大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学分野教授）
◆特別講演13：05～14：05
「慢性疲労研究の成果と展望」
　講　師：倉恒　弘彦（関西福祉科学大学健康福祉学部健康科学科教授）
　座　長：小林　章雄（愛知医科大学医学部衛生学教授）
◆教育講演14：15～16：30
１．「職場における結核対策」
　講　師：犬塚　君雄（愛知県健康福祉部技監）
　座　長：谷脇　弘茂（藤田保健衛生大学医学部衛生学講師）
２．「職場におけるAEDの導入・展開」
　講　師：中川　　隆（愛知医科大学高度救命救急センター助教授）
　座　長：寺澤　哲郎（UFJ銀行名古屋健康管理センター産業医）
３．「職場における危機介入」
　講　師：市川　佳居（株式会社イープ取締役副社長）
　座　長：大久保浩司（浜松赤十字病院健診センター所長）

たちばなホール

教育講演１　「職場における結核対策 ―結核予防法改正の背景と要点―」を聴いて

谷脇　弘茂（藤田保衛大）

平成17年４月１日施行となった結核予防法の改正について講演頂いた。先ずは法改正に関わる背景因子として、疫学的な調査から新規の結核患者発生は、平成12年以降減少傾向が続き、平成16年には３万人を切っている状況にある。しかし、大阪や東京等の大都市に罹患率が高いという地域格差が見られること、基礎疾患を有する罹患者の病態の多様化・複雑化が見られること、薬剤耐性結核が増加している等の問題点を説明された。法改正の主な内容については、①国・地方公共団体・医師等の責務規定の見直し、及び国民の責務規定の整備、②2010年を目標に行われる国及び都道府県の基本指針及び予防計画、③一般住民の65歳以上を対象に行われる定期健診、④都道府県知事が行う定期外の健康診断、⑤ツ反応を行わずに生後６ヶ月までに直接BCG接種を行う定期の予防接種、⑥保健所や主治医による薬剤の確実な服用（DOTS）等について話された。しかし労働安全衛生法に示されている、労働者健康診断の内容変更については決定されていないとのことであった。最後に最新の情報として、厚生科学審議会感染症分科会で結核予防法が廃止され、感染症法の２類に入ることも話された。せっかく改正された結核予防法も無くなることになり、どうして一気に変更できなかったのかと思われたが、平成14年に発生したSARS対策によって変更が遅れたとのことであった。以上、広範囲の内容を短時間にまとめてわかりやすく説明され、聴者にとって大変有意義な情報が得られた。

犬塚　君雄先生

教育講演２　「職場における AEDの導入・展開」を聴いて

寺澤　哲郎（UFJ銀行名古屋健康管理センター）

先ごろ閉幕した愛・地球博で、会場に多数配備されたAED（自動体外式除細動器）が大活躍し、会場で心室細動を発生した５名中４名が社会復帰に至った事は、マスコミでも大きく報道され、記憶に新しいところである。演者の中川先生は、まさしく、この博覧会での救急システムの構築・運営に中心となって取り組まれた方であり、迫力のあるお話をうかがうことができた。

AEDの救急医療における位置付けとして、①昼間の突然の心停止の原因は、大部分が致死的な不整脈の心室細動であること、②心室細動の治療には早期の電気的な除細動が最も有効であること、③対処が６秒遅れるごとに、救命率が１％低下する、まさしく時間との戦いであること、④従ってたまたまそばにいあわせた人が除細動を行うPAD（Public Access Defibrillation）が有効であることが説明され、公共の場にAEDを配備することに大きな意味があることが指摘された。ただし、ただAEDを配置すればそれでいいわけでは決してなく、AEDの使用方法・１次救命処置の方法について、きちんとトレーニングをする必要性も強調された。

現在AEDは公共の場での設置がどんどん進んでいる段階であるが、職域においても、AED導入の推進・AED使用法や救急処置の講習実施・実際の救急処置の実践等、我々産業保健従事者の役割は大きいと考える。

中川　隆先生

教育講演３　「職場における危機介入」

大久保浩司（浜松赤十字病院）

株式会社イープの市川佳居先生による教育講演は予定時刻を15分以上遅れて開始された。先生は、起業した会社名をイープ(EAP)としたようにEAP(Employee Assistance Program)の専門家であり、実践の第一人者である。

講演では、まずEAPについてその概要・紹介がなされた。厚生労働省の「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」の発表以来、一部の方々にはEAPが単なるカウンセリングの専門集団のように描かれていたかもしれないが、今回の講演でその存在について改めて知識を深められたと思われる。

さて、本題の「職場における危機介入」については、用語の定義から始まり、実際に先生が携わった事例を含め、大変わかりやすく説明頂いた。また、危機に遭遇して平常に戻ることが難しいのは当然のことであるが、それに介入することが従業員ならびに会社にとっての重要性を教えて頂いた。労災事故による死亡者は減少しているが自殺者が急増している昨今、また、グローバル化による海外出張の増加などで不慮の事故に巻きこまれる方々もいないとは言い切れないこの頃、職場で危機が発生する可能性は決して低いとは言えない。産業保健に関わる者としては、リスクマネージメントの一つの課題として平素から検討しておかなければならないと改めて考えさせられた。予定時刻を遅れて終了することとなったが、受講者は最後までしっかり聞いていたのは印象的だった。

市川　佳居先生

新 春 随 想

「役割とチームワーク」

軸丸　靖章（聖隷健診センター）

小学４年から野球を始め、学生生活の大半を野球とともに過ごしてきました。就職のため静岡へ来た現在でも、草野球チームに所属し休日には仕事を忘れて汗を流しています。同じ趣味を持つ仲間達と楽しくプレーすることで心身ともに元気になります。野球の様な集団競技では、その中の一人二人が高い能力を持っていてもチームを勝利へ導くことが困難な状況は多々あります。それぞれの役割を担う各人が能力を高めてその力を十分に発揮すること、仲間同士が強く円滑に連携することでチームとしての強さが増し、良い結果を得ることができます。労働衛生の分野においても、そのチームワークや個々の能力の向上は必要不可欠な要素です。私が大学にて労働衛生、特に作業環境に関する知識を学び、作業環境測定士として働き始めてもうすぐ３年、現在の職場は作業環境測定のみならず健康管理、作業管理、作業環境管理、労働衛生教育、労働衛生管理体制といった労働衛生管理全般に携わることがあるため、各分野を専門とする方々に勉強させていただくことがしばしばあります。私が労働衛生の分野を知ったのは、高校の野球生活が終わった３年の夏過ぎ、将来の仕事を踏まえ進路選択で悩んでいた頃です。幼い頃から野球など体を動かすことで充実感を得る性格であったため、私が現在作業環境測定のためお邪魔させていただいている工場で働く労働者の方々のように、日々汗をかいて働く仕事に就ければとただ漠然と考えていました。そんな中、多くの人が毎日健康に働けるよう、様々な事業所の労働衛生管理のお手伝いができる仕事の存在を知り、その仕事のやりがいや社会貢献度等の大きさを感じ、労働衛生スタッフとして仕事に就ければと思い、大学を選び作業環境測定士にたどりつきました。日々の業務では労働衛生コンサルタントについて現場に行くこともしばしばあり、単に作業環境測定のみならず、加えて現場の労働衛生についても勉強させていただいております。労働の現場には有害物質があふれ、また、近年の労働形態の多様化により、事業所の労働衛生管理は複雑であり根気のいる仕事となっています。さらには様々なメディアにおいても有害物質に関する話題が多く取り上げられ、その管理に対する関心が高まっています。人や環境に対する影響が解明されていない物質は多く存在し、既存の物質においてもその健康影響等が加えられているため、作業環境を担う者として現場の評価を正確に行うことは重要な役割であると感じます。まずは自己研鑽、そして関連分野と連携することで顧客、自分ともに充実感を得られるようになれればと思います。最後になりましたが、諸先生、先輩方にご指導ご鞭撻のほどを賜りたくお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「禁煙の喜びを、そして禁煙支援の楽しさを現場の人たちにわかってもらうためにやってきたこと」

石川　貴之（トヨタ自動車堤工場）

あけましておめでとうございます。トヨタ自動車堤工場産業医の石川貴之と申します。私は一昨年の春より、トヨタ自動車に堤工場の産業医として勤務をしております。もともと私は呼吸器科の臨床医でありますが、種々の呼吸器疾患をみているうちに予防医療、とくに喫煙対策の重要性を痛感し、この道に入りました。そのため喫煙対策には特に強い信念をもって取り組んでおります。まず工場安全衛生委員会は「堤工場という一つの町」に産業医が月に一回テレビ放送を流す場だと認識していますので、一ヶ月間の間で色々感じたことを練り上げて話せるよう準備し、ここで禁煙の啓蒙をすることからはじめました。すると現場から「じゃあ先生、うちの部で禁煙講演をやって下さいよ」と依頼が入ります。禁煙に導くことは、心理学の世界ですから、禁煙講演会は難しい顔をして堅苦しい話をしていてはダメだと思っています。言うべき事は言わねばなりませんが、必ず楽しく笑いのある講演会にしようと工夫しています。普段から現場の人と仲良くして、気さくな人に講演会場の前列に座ってもらい冗談を交えた問答をしながらやるのもコツでしょうかね。おかげ様で、工場安全衛生委員会でも「産業医の禁煙講演会は45分間笑いっぱなしのとても面白い講演会だった。あれは禁煙に踏み切る最後の一押しになる。まだやってない部では是非やるべきだ」とある部の部長が発言してくれると、うれしいことに各部の部長から次々と依頼が入って、すでに当工場の７部中５部で禁煙講演会を開催させていただきました。

一番初めに禁煙講演をした部では、先日禁煙達成者の表彰式と体験発表があり、各自の禁煙のきっかけやコツを話されたあと、皆さん「禁煙して本当によかった」と締めくくってくれました。聞いていて思わず目頭が熱くなりましたね……。これらの活動を通じて、この半年で「禁煙宣言」を書いてくれた堤工場の従業員はすでに100名を超えました。「先生、うちの部の連中がこんなに禁煙宣言を書いてくれたよ！」とそれまで禁煙支援とはおそらく無縁だった各部の安全担当者が、ニコニコしながら私のところへ「禁煙宣言」の写しを次々と持ってきてくれるのも、禁煙支援の楽しさを現場の人達に分かってもらえた様な気がして、さらにやる気をかきたててくれます。

岩田統括産業医からも、全社の喫煙対策支援という役目を仰せつかり、この大変やりがいのある仕事をさらに、がんばってゆきたいと思います。

もちろん、そればかりでなく多岐にわたる産業衛生の分野に対しても研鑽を積み、現場の人に信頼され愛される産業医を目指してゆく所存ですので皆様には暖かいご指導のほど、これからも宜しくお願い申し上げます。

「求められているマルチ能力」

酒井　信子（ブリヂストン関工場）

新しい年を迎えられ皆様それぞれに「今年は……」と抱負を抱かれていると思います。最近は、どこの会社も社員に高い能力を求められますので、一人で二役三役とマルチな活動をされている方が多いとお察しします。

私事も例外にもれず、会社で求められている業務は、健康管理と作業環境管理です。２年半前までは、安全担当も５年間担当していました。確かにマルチな業務を行なうには、時間がいくらあっても足りません。１日24時間という与えられた時間は、誰も変える事が出来なく、では、限られた時間の中でどう進めていくかというと、優先順位を決めて、一つずつ実践していくしかありません。しかし、現実は仕事を片付けても片付けても、次から次へと増え続けるのです。マルチな活動は、無駄が取り除かれることになるのか、保留（溜め込んだ仕事）が増えるのか判りませんが、私の仕事の中で溜め込まれた仕事は、職場巡視でした。産業保健師としては欠く事が出来ない常務であり、従業員の職場環境が健康にどのように影響を与え、健康障害が発生してくるかを理解するのに不可欠な情報収集の場が職場巡視です。

ただ、マルチ的な仕事をしていると、職場巡視という業務が溜め込まれたとしても、一方では、作業環境測定実施中に従業員の作業状況や人間関係等の情報が黙っていても飛び込んできますし、多くの作業者とも接する事が出来ます。作業環境測定では、現場に１日中、へばりついている訳ですから、従業員の１日が良く解ります。健康管理面からも健康診断結果の要管理者が、どのような作業をしているかも解ります。

つまり、マルチな仕事を要求されても、健康管理の目的目標を見失わずに仕事の関連性を考え自分の考え方捉え方を変えることにより達成できるのです。いつの間にかあれもこれもという焦りは取り除かれ、総合的に仕事が進み、健康管理の仕事の幅が広がるという結果になります。

産業保健の目的は、①職場と起因する健康障害を予防すること②健康と労働の調和を図ること③健康及び労働能力の保持増進を図ること④安全と健康に関して好ましい風土を醸成し、生産性を高めるような作業組織、労働文化を発展させることです。マルチ的に現場を知るから、通り一編の保健指導や健康相談ではなくなり、従業員をより深く理解でき、いろんな角度からコミュニケーションも取りやすくなります。サポートしやすくなり、マルチだから活動の切り口も多くなり、どこからでも踏み込んでいけるのです。

さて、今年も眉間にしわを寄せることなく穏やかに温かく人を受け入れられる保健師でありたいと抱負を抱きました。

「相補代替医療を用いた産業保健の新しい試み」

沢崎　健太（鈴鹿医療科学大学）

「現代西洋医学以外のすべての療法」を総称してComplementary and Alternative Medicine（CAM）という認識が定着しています。日本国内では、日本補完代替医療学会が「現代西洋医学領域において、科学的未検証および臨床未応用の医学・医療体系の総称」という定義付けをしています。その日本語訳が「相補代替医療」です。欧米を中心としてCAMの需要が拡大している大きな要因はCAMのニーズと費用対効果が注目されているためと考えられています。CAMを使うことにより、正規医療の約５分の１の費用に節約できるとの報告もあります。

企業内でも従業員の健康管理は重要な問題で、病気休業、生産性にも大きく影響すると考えられ、より効果的で低コストの対処策が望まれます。以上の問題を解決する一手段としてCAMの利用が考えられています。このような状況下で、2003年の日本産業衛生学会でも「産業保健と代替医療」のシンポジウムが行われています。

先進諸国ではCAMの拡がりをみせ、正規の医療において、その導入の可能性が検討され始めていますが、実際に企業内の産業医、産業保健スタッフと従業員がそれらをどの程度認知し、利用されているかは不明です。CAMにはエビデンスが実証されていないものも含まれており、CAMの有効性や安全性に関しての正確な情報を患者に伝えることが、医療従事者として今後必要になると考えられます。

企業内におけるCAMに関する研究は、ほとんど行なわれていませんが、CAMの中でもWHOやNIHで適応疾患が発表され、エビデンスが確立されつつある鍼（はり）治療の研究は行われています。大手製鉄業Ｓ社では、鉄材の組み立て、溶接など現場労働が多く、病欠理由で最も目立つのも、腰痛や脊椎の痛みなどの作業関連運動器疾患で、対策を模索していました。それを知った私たちの研究グループ（当時は福岡大学スポーツ医学研究室）は、Ｓ社の健康センターに鍼治療を導入し、作業関連運動器疾患に効果があるか、さらに健康保険医療費の削減につながるか、研究してみようと考えました。研究期間は８週間、鍼治療はごく小さな押しピン状（針長1.2mm）の貼付するものを使用しました。最終判定には117名が残り、うち約９割の痛みが半減しました。注目の医療費は鍼治療導入後に約１/３に減っていました。医療費削減のほか、痛みの軽減に伴う労働意欲の向上、病欠者の減少などを考えると、鍼治療の導入による企業の経済的メリットはあるのではないかと考えています。

実際にCAMの産業保健への導入には、さらに多くの企業でCAM利用の現状とニーズを把握するとともに、さまざまなCAMの有効性と安全性のエビデンスを蓄積しかつ費用対効果を実証することが不可欠と考えています。これらにより、今後、企業内従業員のCAMに対するニーズが高まるようであれば、CAMに対する産業保健におけるコンセンサスが醸成されることが期待されます。

「産業保健にCAMなんて」と思われるかもしれませんが、「日々新たなり」の言葉どおり、時代は確実に変革していきます。「新しい年」に「新しい試み」はいかがでしょうか。

話　題

「アスベスト疾患ブロックセンター」の設置

宇佐美郁治（旭労災病院）

労災病院は従来より勤労者医療に取り組んでおり、その一環として、アスベスト関連疾患に対する健康相談、診断・治療などを行ってきました。クボタの報道をきっかけにアスベストが社会問題化し、その対応として平成17年９月１日付けで全国22の労災病院にアスベスト疾患センターを設立しました。アスベスト疾患センターにおいては、アスベストばく露者、アスベスト関連疾患患者を対象に地域医療機関と連携しながら健康相談、健康診断・治療を行い、石綿関連疾患に係る症例収集をすることを業務内容としています。22センターのうち全国７ブロックの拠点となる７センターをアスベスト疾患ブロックセンターと位置付け、労災医療機関などの地域医療機関への支援を広域的に行っています。中部ブロックのアスベスト疾患センターは、富山、浜松、中部、旭労災病院に設置され、そのうち旭労災病院にアスベスト疾患ブロックセンターが設置されています。

石綿関連疾患は、①石綿肺、②肺がん、③胸膜、腹膜、心膜又は精巣鞘膜の中皮腫、④良性石綿胸水、⑤びまん性胸膜肥厚であり、病態としては、①はじん肺、②③は悪性腫瘍、④⑤は胸膜の炎症です。病気の発生する場所は、①②は肺自体に、③④⑤は肺の周囲の胸膜に発生し、また、③は腹膜、心膜、精巣鞘膜にも発生します。石綿関連疾患は症例数があまり多くないうえ、診断・治療の難しい症例も多く、また、それぞれに労災認定基準があるため、臨床の現場では戸惑いが見られているようです。健診では、上記の疾患の診断はもとより“胸膜プラーク”が重要な位置を占めます。胸膜プラークは石綿ばく露による所見のなかで最もよく見られるものです。石綿ばく露15～30年を経て出現する胸膜の肥厚であり、石灰化を伴うこともあります。しかし、胸膜プラークは肺機能障害を伴うことはほとんどなく、中皮腫に転化することも、びまん性胸膜肥厚になることもありません。胸部CTでの検出率は胸部エックス線の概ね２倍といわれていますが、手術・剖検時でないとわからないものもあります。アスベストばく露は、職業ばく露、傍職業ばく露、近隣ばく露などがあり、裾野の広い問題です。病院には毎日数多くの方が来院されています。症状があり来院される方、健診で来院される方、胸膜プラークがあり他院から紹介される方、中皮腫と診断され労災認定の相談にこられる方など多種多様ですが、皆さん大変心配して来院されます。アスベストを少しでも吸入すると中皮腫になるといった不安や、胸膜プラークがその後中皮腫になるといった誤解などがよく聞かれる内容です。

労災病院で収集した症例を共有して皆さんに多くの情報をお伝えするために、労災医療指定機関の先生方、産業医の先生方、医師会の先生方、呼吸器専門医の先生方、行政の方々などに対し機会を見て講演させていただいています。ご依頼がありましたらご連絡いただければ幸いです。

学会・研究会

第65回職場ストレス研究会

渡邊美寿津（愛知医大・医・産業保健科学センター）

第65回職場ストレス研究会を、平成17年９月７日明倫ホールで開催しました。今回は愛知医大産業保健科学セミナー（４）との合同開催で「職場におけるうつ状態の捉え方」というテーマで、愛知医大精神科講師の松原桃代先生にご講演いただきました。

現在多くの事業場では、いわゆるうつ病の診断書で休業する従業員が増え、難治性でなかなか治らないことや、復職しても再休業してしまうなどの問題を抱えているのではないでしょうか？　こうした状況を背景に、major depression（大うつ病）を主とした、米国精神医学会DSM-IVTRの診断基準による「うつ病（気分変調性障害）」について、幅広くかつ専門的な知識の盛り込まれた講演内容は、非常に有意義なものでした。うつ病の慢性化や再発という問題を理解するためのアプローチだけでなく、私たちが見逃しがちな身体疾患の合併や、うつ病の早期治療につなげるための不眠や睡眠障害への対応、特に、本当にうつ病なのかと疑ってしまうような人格変化あるいは微小妄想をきたすような症例への理解、modified ECT（電気けいれん療法）という最新知見を踏まえた難治症例の治療方法に関する話題は、うつ病を画一的に捉えがちであった私たちにとって、とても新鮮に感じられました。

優しい松原先生のお人柄にも触れることができ、参加いただいた97名の方にも、十分に手ごたえを感じていただけたことと思います。

第33回有機溶剤中毒研究会

市原　学（名大・医・環境労働衛生）

第33回有機溶剤中毒研究会が2005年11月11、12日の二日間、名古屋クラウンホテルで行われた（世話人：名古屋大学　那須民江）。参加者は59名であった。特別講演「有機溶剤の特殊健康診断項目の見直し」（中央労働災害防止協会　桜井治彦）と二つの特別報告「アンケートから見た日本における有機溶剤取り扱い作業場の状況」（産業医学総合研究所　斎藤宏之）、「アジア諸国の有機溶剤職場－作業環境・中毒発生・予防対策の状況」（愛知教育大学　久永直見）が企画として組まれた。一般演題は12題で、池田正之京都大学名誉教授から頻用溶剤の調査報告、名古屋大学から中国１－プロモプロパン（１－BP）曝露労働者の新しい調査結果、焼津市立総合病院の渡邉幸弘医師から日本ではじめての１－BP中毒症例、竹内康浩名古屋大学名誉教授から韓国、中国における新しいヘキサン中毒の発生が報告された。そのほか、骨髄異形成症候群、セロソルプおよびN-Nジメチルアセトアミドの生殖毒性、トルエン曝露指標ベンジルアルコール、VOCの尿中代謝物、新築家屋の室内化学物質、ALDH2ノックアウトマウスを用いたアルデヒド代謝、アルコール性肝障害の検討が報告された。ヘキサン中毒、１－BP中毒研究は開催地である名古屋から発信され、世界をリードしている研究である。本研究会において、労働衛生研究が現実に日本と世界の行政を動かしていく大きな力となることが改めて示された。

これからの諸行事予定

①第66回職場ストレス研究会

1. 日　時：2006年1月25日（水）14：00～16：00
2. テーマ：「キャリア・ストレスとワーク・ライフ・バランス」
3. 講　師：金井篤子　先生（名古屋大学大学院教育発達科学研究科　教授）
4. 会　場：明倫ホール（中区新栄２－４－３　明倫ビル６Ｆ）
5. 参加費：500円
6. 事務局：〒480－1195　愛知医科大学医学部衛生学教室
   ＴＥＬ：0561－62－3311　内線　2371
   ＦＡＸ：0561－63－8552

②第20回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会

1. 日　時：2006年2月3日（金）10：00～16：50
2. 会　場：産業技術記念館　大ホール
3. 会　費：会員：7,000円　非会員：8,000円（昼食・資料代を含む）
4. 定　員：300名（定員になり次第、締め切らせて頂きます）
5. 事務局：日本産業衛生学会東海地方会事務局
   〒467－9601　名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
   名古屋市立大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学分野内
   ＴＥＬ：052－853－8171　ＦＡＸ：052－859－1228
   E-mail：tosh-net@med.nagoya-cu.ac.jp
6. プログラム
   10：00～10：15　開会の挨拶・オリエンテーション
   10：15～11：30　講演「職域における循環器疾患の予防を目的としたポピュレーション・ストラテジーの実践」
   岡村智教（滋賀医科大学　助教授）
   12：30～13：45　講演「「産業人予備軍」のメンタルヘルス～現代日本の若者をどう理解し、向き合うのか～」
   景山任佐（東京工業大学　教授）
   14：15～16：45　パネルディスカッション
   「アスベスト問題を考える－問題の背景と今後の課題」
   パネリスト
   「疫学的見地からみたアスベストの健康問題」
   高橋　謙（産業医科大学教授）
   「患者への対応からみたアスベスト問題」
   宇佐美郁治（旭労災病院副院長）
   「アスベストへの対応の経緯と今後の課題」
   久永直見（愛知教育大学教授）

③第19回振動障害研究会

1. 日　時：2006年2月18日（土）13：30～16：30
2. 場　所：名古屋大学医学部・鶴友会館　2階大会議室
3. 演　題
   1. 2005年7月EU指令発行後のEU加盟国の動向と手持振動工具のラベリングへの試み
      前田節雄（独立行政法人産業医学総合研究所）
   2. EU振動指令の施行と手腕振動測定規格の動向、工具メーカーの対応
      畝山常人（㈱マキタ）
   3. 男性屋外労働者における冬季の手指の冷え・しびれ及びレイノー現象の有訴率
      井奈波良一（岐阜大学医学部）
4. 事務局：名古屋大学医学部保健学科・榊原久孝
   電話/Fax(052)719－1923　Mail：sbara@met.nagoya-u.ac.jp

④第10回職域肺疾患管理研究会

1. 日　時：2006年2月18日（土）14:00～16:30
2. 場　所：名古屋大学医学部基礎研究棟1階会議室
3. プログラム：メインタイトル「職場のインフルエンザ対策」
   講演1　「インフルエンザウイルス感染症（仮）」
   演者：検索中
   講演2　「企業における日常的なインフルエンザ対策の一事例」
   秋山　泉（東レ）、斉藤政彦（大同特殊鋼）
   一般演題
   「職域胸部X線健診で発見された肺がん症例の5年及び10年生存率」
   加藤保夫（岐阜県産業保健センター）
4. 事務局：藤田保健衛生大学医学部衛生学教室・谷脇弘茂
   TEL/FAX(0562)93－2456　E-mail：taniwaki@fujita-hu.ac.jp

財団法人　愛知健康増進財団
理事長　土　井　寛　己
診療所長　水　野　金一郎
〒462-0844　名古屋市北区清水一丁目18番4号　TEL(052)951-3331

財団法人　岐阜県産業保健センター
理事長　籠橋　久衛
診療所長　加藤　保夫
〒507-0801　多治見市東町1丁目9番地の3
TEL(0572)22-0115

（医）卓和会　しらゆりクリニック
理事長　由　利　卓　也
〒442-0013　豊川市大堀町77番地　TEL0533-86-1515

（社福）聖隷福祉事業団
聖隷予防検診センター
所長　淺　井　八　多　美
〒433-8558　浜松市三方原町3453-1　TEL(053)439-1111

社団法人　瀬戸健康管理センター
理事長　神　戸　芳　樹
診療所長　坪　井　靖　治
〒489-0809　瀬戸市共栄通1丁目48番地
TEL（0561）82-6194　FAX（0561）85-2466

謹賀新年

医療法人　愛知集団検診協会
愛知健診所
〒496-0048　津島市藤里町2-3-1
TEL（0567）26-7328番
FAX（0567）26-7994番

医療法人　光生会病院
〒440-0045　豊橋市吾妻町137番地
TEL（0532）61-3166　FAX（0532）63-5407

（社福）聖隷福祉事業団
聖隷健康診断センター
所長　武　藤　繁　貴
〒430-0906　浜松市住吉2丁目35-8　TEL(053)473-5501

財団法人芙蓉協会　聖隷沼津第一クリニック
聖隷沼津健康診断センター
所長　伊　藤　孝
〒410-8580　沼津市本字下一丁田895-1
TEL（055）962-9882　FAX（055）952-1019

財団法人　全日本労働福祉協会
東海診療所
会長　濱　島　義　博
〒450-0003　愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目27番2号
日本生命笹島ビル6階
TEL(052)582-0751　FAX(052)582-6968

会員の表彰

緑十字賞

木村　英道（神岡鉱業）

会員の異動

（2005.8.1～2005.11.30）

新入会　愛知①大林浩幸（東濃厚生病院）②岡田達郎（岡田クリニック）③岡村雪子（名市大・看護）④金森亜矢（藤田保衛大病院）⑤小出将則（豊田西病院）⑥内匠孝（タクミ歯科医院）⑦森川見佳子（東海旅客鉄道）⑧山本直樹（トヨタ記念病院）静岡①加藤宏明（かとう歯科）②川下孝（かわした歯科クリニック）③軸丸靖章（聖隷健診センター）④藤田晶子（歯科村尾医院）三重①上林肇（うえばやし歯科医院）②岡野祥子（シャープ）

転　入　愛知①高木愛（関東から）②原田弥恵子（トヨタ自動車、近畿から）三重①加藤圭子（三重大・看護、関東から）

退　会　愛知①安藤晃禎（三菱電機）②小森和代（あいおい健康保険組合）③鹿島聡子（中災防）④加藤昌平（豊田健康管理クリニック）⑤粥川久美子（エナジーサポート）静岡①重野説子（創輝）②道上育子（丸山病院）

転　出　静岡①鈴木安名（労働科学研究所、関東へ）②古橋英美（聖隷佐倉検診センター、関東へ）三重①石川仁（山形大・医、東北へ）②辻上周治（ウシオ電気、近畿へ）③松本幸男（BASF Japan Ltd.、関東へ）

地方会理事会

2005年度第１回理事会

日　時：2005年５月28日（土）13：00～15：00

場　所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室

出席者：理事30名、顧問２名、監事１名、委任状：27名

A．前回理事会議事録の確認

B．報告事項

１）2005～2006年度地方会執行体制について　２）本部　３）産業医部会　４）産業看護部会　５）産業衛生技術部会　６）地方会事務局　７）第19回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会　８）平成17年度地方会総会並びに研修会　９）平成17年度地方会学会　10）地方会ニュース　11）地方会主催行事等での地方会会員謝金の取り扱い　12）関連学会・研究会　13）今後の関連学会・研究会等

C．協議事項

１）平成16年度事業報告・決算報告案　２）平成17年度事業計画・予算案　３）来年度地方会総会並びに研修会、学会担当について　４）地方会理事会日程について

2005年第２回理事会

日　時：2005年８月20日（土）10：00～12：00

場　所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室

出席者：理事：26名、委任状：28名

A．前回理事会議事録の確認

B．報告事項

１）本部　２）地方会事務局　３）平成17年度地方会総会並びに研修会　４）平成17年度地方会学会　５）平成18年度総会並びに研修会　６）平成18年度地方会学会　７）地方会部会　８）地方会ニュース　９）名誉会員の推薦について　10）平成17年度（第65回）全国労働衛生週間について　11）関連学会・研究会

C．協議事項

１）日本産業衛生学会東海地方会創立70周年記念行事　２）第20回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会

編集後記

明けましておめでとうございます。早いもので編集委員として、４年目の新年を迎えることになりました。毎回ニュースの編集を行っていると、産業保健活動の現在がよくわかり、大変良い刺激を受けております。企画を考えるのはとても楽しいひとときですが、原稿を誰に依頼するかが悩みの種。東海地方会には様々な方面でご活躍の素晴らしい先生方も沢山おられますが、諸先輩方の歴史と伝統を大切にしながらも、一方で新しいスタイルを作り上げていくことも必要だと感じております。私自身も若手（?）の１人として微力ながら努力してまいりたいと思いますので、まだニュースに登場されていない皆様、今年は是非積極的なご協力をお願い申し上げます。（高崎正子）

次回発行　平成18年５月１日
編集責任者　谷脇　弘茂（藤田保衛大）

編集委員（五十音順）
石川浩二（三菱重工）　市原　学（名大）
加藤保夫（岐阜県産業保健センター）　後藤義明（NTT東日本）
高崎正子（東芝四日市）　城　憲秀（名市大）
武山英磨（名市大）　武藤繁貴（聖隷健診センター）
渡邊美寿津（愛知医大）

謹賀新年

平成十八年元旦

健診健康総合サービス
㈶全日本労働福祉協会東海支部
支部長　小浜　尚
〒457-0044 名古屋市南区柵下町２-４　TEL(052)822-2525

㈶東海検診センター
理事長　宮崎　東洋
診療所長　斉藤　俊二
〒410-0003　沼津市新沢田町８-７
TEL（055）922-1157
FAX（055）923-5078

Nagoya Central Clinic
医療法人　名翔会
名古屋セントラルクリニック
〒457-0047　名古屋市南区城下町３丁目14番地
TEL(052)821-0090　FAX(052)824-0655

㈶日本予防医学協会　東海センター
（健康フォーラム名古屋談話室）
〒461-0002　名古屋市東区代官町39-18
TEL（052)931-0526・FAX（052)932-7092

医療法人　九愛会
中京サテライトクリニック
理事長　宮嶋　忍
〒470-1101　愛知県豊明市沓掛町石畑180番地の1
TEL　(0562) 93-8225㈹　FAX　(0562) 93-0938

（医）豊昌会
豊田健康管理クリニック
〒473-0907 豊田市竜神町新生151番地2　TEL(0565)27-5550
FAX(0565)27-5036

NOH Nissin Orido Hospital
医療法人　大医会
日進おりど病院
〒470-0115　日進市折戸町西田面110番地
TEL 0561（73）7771　FAX 0561（73）6140

社団法人
半田市医師会健康管理センター
所長　榊原幹雄
〒475-8511　半田市神田町1-1　TEL(0569)27-7881